

2019年度通常枠PO育成研修

# 中国5県休眠預金コンソーシアムで 目指しているもの



2022年6月28日  
NPO法人ひろしまNPOセンター 松村

## ■ お伝えする内容

1. 中間評価以降、事後評価に向けて資金分配団体として取り組んできたこと
2. 事業終了に向けて、「評価」をどのように活かして、どのようにまとめていく予定か
3. 「評価」で得たもの、まとめたものをどのように関係者などに伝えていく予定か

# 1. 中間評価以降、事後評価に向けて 資金分配団体として取り組んできしたこと

- 評価専門家の招聘
  - 多摩大学社会的投資研究所 小林立明氏
  - 毎月2回程度の評価MTG (2022.6.28時点で16回実施)
  - 個別相談 (たくさん)
- コンソ・バラエティ型資金分配団体としてのアウトカム整理
  - 実行団体と資金分配団体のアウトカム・アウトプット洗い出し
  - 絶対値的指標から相対値的指標への軌道修正
- 非資金的支援 (伴走支援) のメニュー化
  - 【共通】3項目 + 8項目
  - 組織診断との整合
  - 伴走支援ログ記録ツールの作成

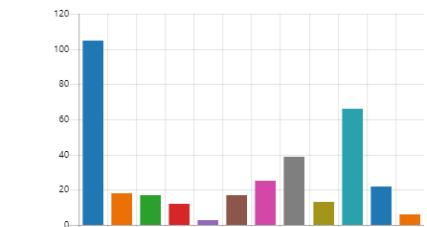
## 2. 事業終了に向けて～で解説

目標値	結果	スコア	総合スコア	資金分配団体指標目標
舞台ライブ配信2回、人数200人	舞台ライブ配信3回、人数97人（内、オンライン33人、YouTube267回視聴）	4	3.25	-3.学びの環境が不安定な子どもを対象とした継続的な学びや体験活動の機会が新しい生活様式に沿った形で再開または新たに開始されている。
メディア講座ライブ配信8回、人数320人	1.3回子ども322人（内、オンライン322人）、大人60人（内、オンライン60人） メディア研修会2回、大人20名（内、オンライン10人）	2.	3	-3.学びの環境が不安定な子どもを対象とした継続的な学びや体験活動の機会が新しい生活様式に沿った形で再開または新たに開始されている。
子どもと遊び8回、人数180人	アナログゲーム＆木のおもちゃ体験会4回、親子147人（内、オンライン0人）	2		-3.学びの環境が不安定な子どもを対象とした継続的な学びや体験活動の機会が新しい生活様式に沿った形で再開または新たに開始されている。
イベント5回 参加人数14人 団体数3団体	イベント5回 参加人数60人 団体数4団体	4		-3.学びの環境が不安定な子どもを対象とした継続的な学びや体験活動の機会が新しい生活様式に沿った形で再開または新たに開始されている。

## 4. 5. 6. で解説

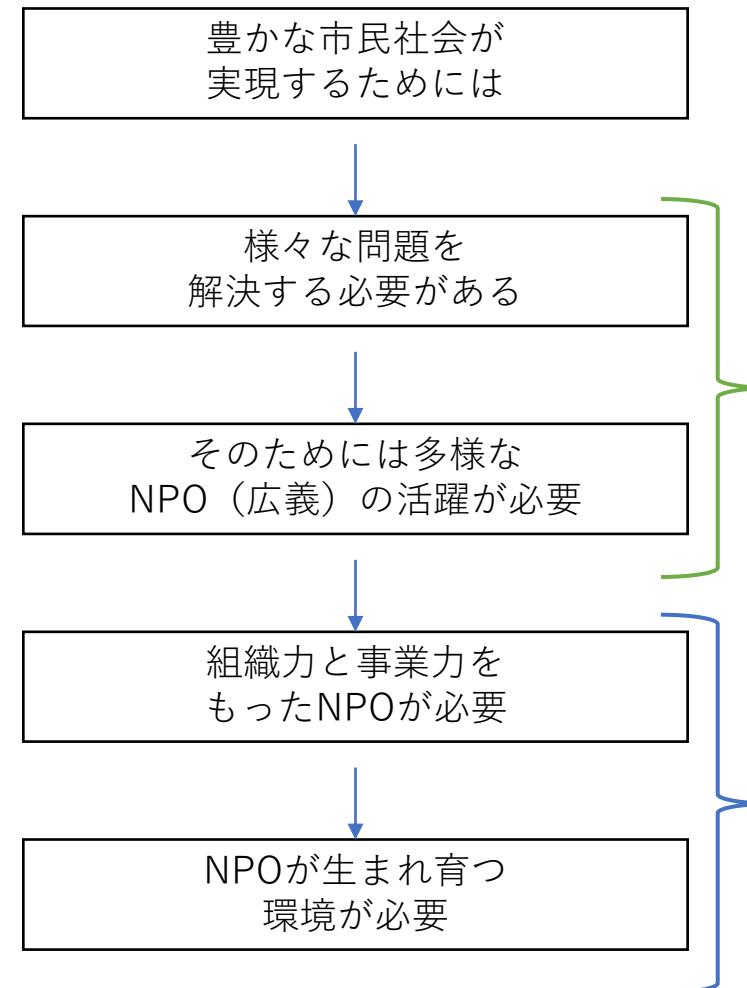
### 13. 支援メニュー\_個別支援

詳細	
● 【共通】計画策定支援	105
● 【共通】規定類整備	18
● 【共通】組織診断	17
● ①ミッション・ビジョン	12
● ②ガバナンス	3
● ③財務・資金調達	17
● ④人材	25
● ⑤事業運営	39
● ⑥連携・協働	13
● ⑦評価・報告	66
● ⑧広報・マーケティング	22
● その他	6



## 2. 事業終了に向けて、「評価」をどのように活かして、どのようにまとめていく予定か

- ・コンソ・バラエティ型資金分配団体の悩み
  - ・取り組む社会問題が実行団体と一致しない  
⇒実行団体と資金分配団体の目標や活動を整理
  - ・実行団体の立てる指標を絶対値として扱いにくい  
例：実行団体が立てた直接対象グループの目標値を人数に統一しても、『イベント参加者1,000人』と、『手厚い支援を行った5人』を合計して1,005人で成果とは言えない。  
⇒絶対値から相対値へ指標の修正



【評価ポイント①：実行団体レイヤー】

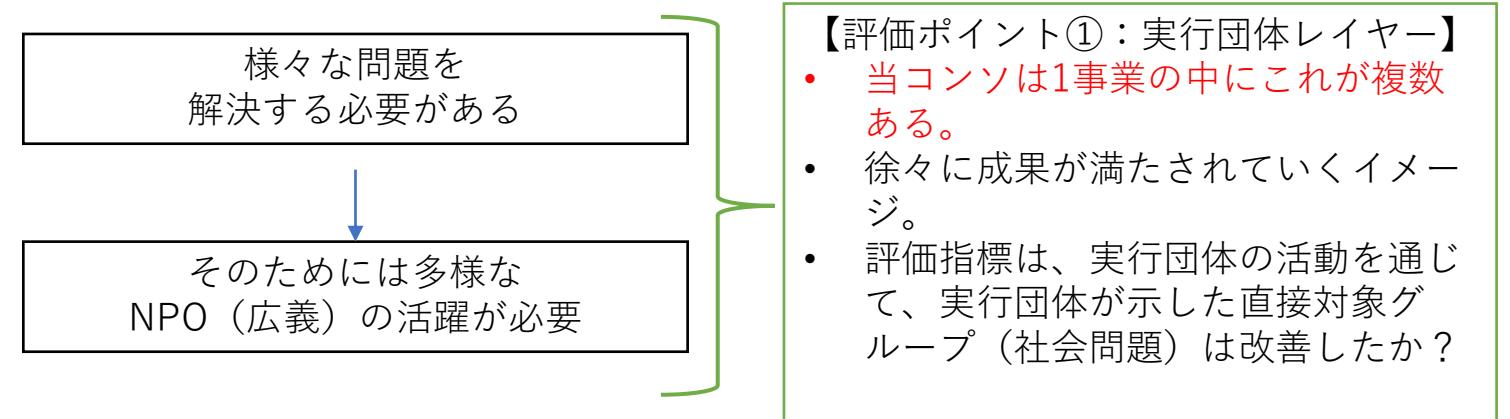
- ・当コンソは1事業の中にこれが複数ある。
- ・徐々に成果が満たされていくイメージ。
- ・評価指標は、実行団体の活動を通じて、実行団体が示した直接対象グループ（社会問題）は改善したか？

【評価ポイント②：資金分配レイヤー】

- ・当コンソの事業は社会問題の解決とNPOの強化は両輪。
- ・評価指標は、助成金（資金的支援）や伴走支援（非資金的支援）を通じて実行団体の事業力・組織力は向上したか？
- ・事業終了後も持続できる状態にあるか？

## 2. 事業終了に向けて、「評価」をどのように活かして、どのようにまとめていく予定か

- ・コンソ・バラエティ型資金分配団体の悩み
  - ・取り組む社会問題が実行団体と一致しない  
⇒実行団体と資金分配団体の目標や活動を整理
- ・実行団体の立てる指標を絶対値として扱いにくい  
⇒絶対値から相対値へ指標の修正



例：実行団体が立てた直接対象グループの目標値を人数に統一しても、『イベント参加者1,000人』と、『手厚い支援を行った5人』を合計して1,005人が成果とは言えない。

相対値化：実行団体毎に目標値に対する結果を測り、5段階でスコア化  
5】125%以上達成、4】100%以上達成、3】75%以上達成、2】50%以上達成、1】達成度50%未満

相対値化することで、実行団体の成果を単純に積み重ねるのではなく、資金分配団体としての成果を（多少は）測れるようになった。

### 3. 「評価」で得たもの、まとめたものを どのように関係者などに伝えていく予定か

- JANPIAを通じて
  - 使用した（開発した）ツールの共有
  - 多様な分野の評価指標共有
- 事業報告書の作成
  - コロナ枠において実績あり
- 事業報告会の実施
  - まだ予定

#### 「緊急コロナ枠」報告書



検索：中国5県休眠預金等活用コンソーシアム  
<https://kyumin-chu5.npoc.or.jp/information/pickup/1185/>